

雷魚、青街灯、暗闇坂、

あるいはうしなわれたものたち

作・立夏

登場人物

「海辺の小さな町の図書館」 序章

ト書き・・・物語をかたるもの。火影と同一

酩酊・・・図書館の館長である男。昔、青い街灯の街で駐在をしていた。

論理・・・図書館に現れた女

本・・・図書館にいる少女

幻想・・・酩酊の孫娘

司書・・・図書館の司書

明かり・・・星を見る女

「青い街灯の街」 本章

汐・・・町に住む青年

泡沫・・・汐の妹

十五夜・・・泡沫の友達であり、もうひとりの泡沫

アカツキ・・・街の売り子。

夜さり・・・アカツキの姉。

火影・・・汐と泡沫の家で飼われている黒い犬

ナギ・・・汐の友人であり、泡沫の婚約者

※上演では、以下のように一人二役：汐／酩酊、泡沫／論理、十五夜／明かり、夜さり／本、火影／ト書き、ナギ／司書。また、雷魚については、ナギが演じる。

「海辺の小さな町の図書館」

上演前よりト書き、客席に座り、青いカバーの本を読んでいる。
やがてその本を高く掲げ、ページを一枚めくる

ト書き

町の周りは、何十年も何百年も前から「海」だったから、海辺にあるその小さな町にも、やはり潮のにおいが染み付いていた。町はと言えば・何年も何十年も前からそこにあった。町は海に比べたらずっと若い。でもわたしたちの暮らしにとっては、それでもとても長いながい時が経っていたから、町自体がつまり、海そのものようだったから、その街のどの建物も中に一步入れば、一番初めに、それぞれの家の生活のにおいよりも先に、潮・潮のにおいがした。（遠くに手を伸ばして）町の外れには低い崖、崖の奥には深い森が、その崖と森のゆるやかに変わる境目に、ひっそりとその図書館は建っていた。

奥から、酩酊が入ってくる。その姿を見てト書きは立ち上がる

ト書き

（声を潜めて）誰かが、図書館の前にひとりいるようだった。そして、建物の静かな外観を見つめているようだった。（歩きだし、図書館の壁を確かめれる）雨風に晒されてくたびれて、それでも清潔な予感のする白い外壁。鉄の錆びた扉。（酩酊とト書き、同時にドアノブを捻り扉を開ける）ドアノブを捻る音。誰か・はドアを、そっと、閉めると、またさっきと同じようにして、今度は図書館の廊下をじっと見つめた。

酩酊は図書館の廊下を歩きます。酩酊にはト書きが見えていない。

ト書きの姿は誰にも見る事ができない。声も聞こえない。

ト書きは本を読みながら、酩酊と同じように歩き出す。

ト書き

図書館は、その誰か・をずっと待っていたかのようにそこにあった。短い何も無い廊下の細胞全部が、彼の定めるような視線にじっと耳を傾けている。事実図書館は、その誰かを本当にずっと待っていた。昨日と変わらない同じ姿でずっと誰か、彼を待っていた。同じ姿。それは例えば明かり。白い部屋にまんべんなくしんと降り積もる昼の白い明かり。窓、曇り空、夜の風で一瞬舞い上がってそれきりの薄く新しいほこりたち。部屋の扉が、あいて、空気が動く。彼が・老いた男がひとり入ってくる、靴の音。（靴の音をならす）壁一面の本棚。木で出来た古い机、それよりは少し新しい形の揃えられた椅子。（再び客席に座る）

酩酊

ピアノ。

ト書き

ピアノ。ラップトップの古いピアノ。時の止まったラップトップの古いピアノ。まるでそこだけ遠く置き去りにされたかのように時の止まったラップトップの古いピアノ。

酩酊、ピアノを鳴らす

ト書き

(酩酊のピアノのタッチに合わせて) E・E・E…。

酩酊

あ、

ト書き

、と男は言って、

酩酊・ト

カセットだ、(酩酊、ラジカセのものに駆け寄る)

ト書き

カセットテープのスイッチを入れた。カセットテープが音を立ててまわる…、(カセットテープの音として) しゅらしゅらしゅら…しゅらしゅらしゅら…しゅら…

やがて、 snake:

酩酊

snake:

ト書き

ケツアル・クアトル。

酩酊

ケツアル・クアトル。

ト書き

虹。

酩酊

虹。

ト書き

コル・ヒドレ

酩酊

コルヒドレ。：オロチ：シチホダ：ケルベロス：シーサペント：

ト書き

(酩酊の言葉を待たずに) 老いた男は自分の言葉をテープの音に置き換えて、もう一度作り上げようとしていた、その意味を、シーサペント、：ナギ、

酩酊

ナギ。：ナギ。

ト書き

ナギ、とテープは繰り返した。なるべく無機質な音になるよう、まるで細心の注意を払うように男には聞こえた。「ナギ」、それは男の良く知っている言葉だった。海辺の図書館が・風で・小さく・揺れた。(手に持っていた本を放り投げ) 一冊の。古い本が零れ落ちた。若い女が入ってきた、

論理が入ってきて、ト書きの投げた本に気が付き拾い上げる

ト書き

女は、

論理

おじさん、落としましたよ！

ト書き

本を拾って男に手渡そうとしたが、男はそれを振り払い、本は、そしてもう一度落下した！

論理

おじさん・また・ほんを・おとしましたよ！

ト書き

女は本を拾い上げはじめのページを開いた、男がそれに気がついてやめると声をあげる前に、女は声を論理 雷魚、青街灯、暗闇坂、あるいは

本、入ってきて論理の本を取り上げる

本

雷魚、青街灯、暗闇坂、あるいはうしなわれたものたち、

ト書き

いつのまにかそこには小さな女の子が居て、ふたりをじっとみつめていた。男は図書館を出て行こうとする。

本

おれのすんでいる街の街灯はね、普通と違って、青いひかりをとめます。

酩酊

……

本

夜になると道が真っ青に、まるで海の深くふかくもぐった様になって、その日のまっすぐな道はどこまでも青く冷め切った。でもどこか落ち着く知っている光。ねえねえねえ、聞いて！

本・ト書き

聞いて！聞いてよ！

ト書き

波の音。

酩酊

帰るからな。

本

ねえってばあ！

論理

いいにおい。

ト書き

女は本のおいを吸い込んだ。

論理

海のおいがする。

本

ここにある本はさ・海のふかくふかく沈んでいたのを、おじさんが全部すくいあげたの。ここから凄く遠いところに島がある・その島の沖に、ずっと沈んでいたんだよ。

酩酊

それでもずいぶん、ずいぶんたったよ。だから嘘だよ、

論理

ううん、

酩酊

わかるはずないんだ。

論理・本

そんなことはありません。

(ト書き

「カッコ内は以後のセリフに重なりながら」女は自分の故郷にひとり残してしまつた足の不自由な妹のことを思い出していた、妹は港の向かいにある甘い丘の向こうまで車椅子で駆けていく・女の乗る船が水平線の遥かへ消えてしまつた、そこでずっと手を振ってくれていた、さようなら・さようなら・さようなら！女の耳の奥にはそれからずっと妹の車椅子の車輪の音が聞こえている、しゅらしゅらしゅら……)

論理

これは冷たい水のおい、

本

おじさんが救ってくれるまで、本はずっと寂しい水の底にいたよ、海に浮かぶ彼の島をぐるりと包んでいるのはいつもそう・嵐の予感と・魚の足音、しゅら

しゅら音がするんだよ。

論理 それから・ゆるしてほしい？

酩酊 知らないよ、

本 魚たちは島の周りを

本・ト書き しゅらしゅらしゅらしゅら

本 と回りながら、青い光をどうとう見つけました。

*本 (*ト書きと同時に)彼の住んでいる街の街灯はね、ふつうと違って青い光をともします、魚たちから・その街の街灯は、さまよう迷子の海のサーチライトだった。ある一匹の魚がその足で街に向かって泳ぎ始めるんだ。

*ト書き

(*本と同時に)おれの住んでいる街の街灯はね、ふつうと違って青い光をともします、夜になると道が真っ青に、まるで海の深くふかくもぐった様になって、その日のまっすぐな道は、どこまでも青く冷め切った・でも・どこか・落ち着く・知っている光。なあ・

ト書き・論理 なにが違いましたか、何をしましたか、あいつが、あいつが愛しているってんだ。

酩酊 返せ！

ト書き 男は女から本を取り上げた。しかし男の深酒に震えた手から、(男の手にある本を床にたたき落とす)：二人目の女。

幻想、入ってくる

幻想 うぜーんだよ。(酩酊を蹴り飛ばす)

酩酊 ::::

幻想 ::くそじじい。

ト書き 男の孫娘。年は二十歳を過ぎたばかり。

幻想 あつい::。(舌打ち。本棚を蹴る)

ト書き 視線。

幻想 (論理に)なんだよ。

酩酊 出て行け、

幻想 ハァ、お前帰んだろ？

酩酊 出て行けといっているのが分からないのか！

論理 こんなことするならあなたが出ていってよ！

本 やめて。

酩酊 ::::

本 いたくなんかないよ。

幻想 お前さ::、知らねんだろ。じいちゃんの図書館もうすぐなくなんだよ。昨日工

事の連中山ほど来てさ、タテモン中じろじろ見渡して、煙草吸いながらああだこうだ言って笑ってた。来週になればここは取り壊される、そんで別荘が建つんだよ、東京の金持ちのお嬢さまが、何にも知らされずに死ぬまで閉じ込められて暮らすための・おっきな・白い・リョウウヨウシセツ。

ト書き

孫娘は自分がどこまで本当のことを話しているのかわからなかった。わかるのは来週の朝日がこの東の崖に昇るころには、自分の祖父が生涯を懸けたであろう場所の一切と、お別れをすっかりすませているということだけだった。それが本当ならそれ以外のことはどうでもよかった。

幻想

こないだ西の波止場で「お嬢様」とすれ違った。あいつ召使い三人も付けてさ、にこにこしながら買い物してた。馬鹿なんだよ、だれも居ないとこにずうっと話しかけてた、さっさと死んだらいいんだ、あんなぶっ壊れ、

ト書き

女が娘につかみかかった、

論理

そんなことない、謝って。
車輪の音。しゅらしゅらしゅらしゅらしゅら。

ト書き

じゃあ？いいってんだ。

幻想

∴∴

幻想

あんたそれ・ほんとはだれに言ってるの。

ト書き

孫娘の出稼ぎに行った恋人もいつも嘘ばかりついてた、でもだから優しかった。恋人は孫娘のことを「お嬢さん」と呼んだ。

幻想

納得してんだ、じいちゃんは。

酩酊・本

ああ。しているさ。

幻想

そんなら・今すぐ捨てちまえよ。この本全部、今すぐに、この海に∴∴

ト書き

カセットテープがB面にスイッチする音。

幻想

じいちゃんのこと・何にも知らないんだ、毎日ここで本を読んでいただけ、毎日分厚い本を積み重ねてはあっちからこっちに運んでただけ、毎日・毎日、こんな風にして、こんな顔でさあ、でもそれって・つまらなかつた？つまらなかつたんですか？誕生日にくれる本はいつも難しくて分かんない、でも知ってるおじいちゃんにとって、全部図書館と・それ以外だった。全部、図書館と、それ以外！あたしは∴。おばあちゃんが∴、おばあちゃんになんて説明するんだよ！

酩酊

なあ、

幻想

（酩酊に掴み掛り）お願いです∴。頼むから言ってお下さい、ふざけんなって、ここがなくなるくらいなら死んだほうがマシだってここから飛び降りて今すぐ死んでやるって。そうしたら∴：そしたら、

幻想、本棚の本を手に取り、窓から投げ捨てようとする

論理

(幻想を止める) やめて、

幻想

せめて、せめてあたしは。

酩酊

いやだよ。

幻想

……。

酩酊

ちゃんと・すべて話すから。

ト書き

カセットテープから、ある男の音がする。「おれの住んでいる街の街灯はね、ふつうと違って青い光をともします、

カセットテープが勝手に回り始める

本

だれの声？

ト書き

夜になると道が真っ青に、まるで海の深くふかくもぐった様になって、その日のまっすぐな道はどこまでも青く冷め切った・

本

きみなの？

ト書き

でもどこか落ち着く知っている光。なあ・なにが違いましたか、何をしましたか、あいつが、あいつが愛しているといったんだ。」その声は若く掠れていて、この場所にいるものたちの中の誰のものでもない、

司書と明かりが入ってくる

司書・明かり

入り司書 そこまでです。

ト書き

若い男。この図書館の司書。隣には異国の女。

司書

館長。カセットテープをとめてください。

ト書き

本当に真実誰のものでもない声だった、カセットテープは鳴り続ける。

論理、カセットテープのスイッチを押す

ト書き

「愛している・愛している・おれは・あいつを・愛してる。なんどもなんども聞いた、何度殺しても殺しつくしても息を吹き返したそのことばを、最期にあいつが言ったんだ、

止まらない、どうして、

違いますよ、

司書

ト書き

右手はどうとうポケットのナイフを探していた、がしゃん・がしゃん・遠くにあった雷鳴が、いまじゃすぐ近くに來ているようだった、だめだった、だめなんだ、それからあいつの頭を挿んでこうして浴槽に」

司書

こうです。

司書、ト書きから本を取り上げる。ト書き、倒れる。そのとき初めて、ト書きの姿・声が図書館にいる全員に見え・聞こえるようになる。

酩酊

(ト書きに触れる) ずっと昔、この街に住んでいた。

論理

この街？

酩酊・本

(本のページを指差して) この街さ。ここから遠く、本が沈む海の島。魚が囲む冷たい海の島。その島の青い街灯の街に生まれたときから住んでいた。あれは二十六の頃だった、落っこちまったんだ。瑣末なきっかけで、ふとしたことから足を踏み外した、そこから落ちて、落ちて、落ちて、落ちて、痛みで体がばらばらになりそうでもまだ落ちて、もういい、もう疲れてしまったと、そして最後に、あの坂に辿り着いた。暗闇坂。それから自分の足元さえ見えないほど深い夜の下り坂をずうっと走って。下っても下っても終わりが見えない、決して昼の光の入らないその坂は、街では一度行ってしまったら、二度と元の暮らしに帰ることは出来ないと言われている。

酩酊

何年経ったろう、いや何十年、もしかしたら数日だったのかもしれない。覚悟したさ。心の中で、家族へ愛するものへ、お別れの挨拶をしようと思った。「おれはそっちへ・いけそうもないよ」そんなとき見たんだ、視界の端っこだよ。どうしてそれに気が付いたのか、それとも気づかせてもらったのか今ではもう分からないけれど、暗闇坂の果ての果てには、細い骨を銜えた闇より黒い犬が居て、まだうしなっちはいけないよ。ちいさなおぼつかない声は、たしかにそう届いた。

酩酊・本

酩酊・司書

酩酊

ト書き、四つん這いに起き上がる」

それまでのたぐさんの言葉を操っていたト書きは

実際には人間に言葉を伝えることのできない黒い犬「火影」である

(火影は劇中言語を話す、人間に直接意味は伝わっていない)

ト書き

(吠える)

本

(耳をふさぐ)

酩酊

なあ・火影。

酩酊・本

きみはまだ、生きていたんだな。

ト書き

ちがう、これもちがう、お前知らないんだ・守ったような気が自分勝手になっ

たくせに！そんな物語よすべて嘘だ、あんたが知らないことは、あいつも・あいつが：汐がナイフがみんなを奪ったんだ！

本 ねえ、もう大丈夫なの、

火影がそう言って、そしたらすぐに、何度も振り返ったはずの自分の背後に青い光がふと閃いた。海の色をした、冴えた灯火。街の街灯だ。それを懸命に目指して、のぼって、のぼって、登り切ると、ようやく街に帰り着いた。そこに汐たち・の家はあった。彼の家は街で一番海に近く、そして裏手には暗闇坂の入り口があった。

酩酊・明 雨がどしんと落ちてきて、

雷鳴が聞こえたよ。汐の家の赤い屋根は闇と街灯ですっかり真っ青に濡れて、雷が光るたびにだけ赤くじわりと点滅しているように見えた……。最初から最後までなにもかもが終わっていることが分かったんだ。おれは、扉を開けた。今日は、夜になったら蛇の星が見えるの。

酩酊 ああ、覚えてんだ。

明かり 南の空に鈍く光る、六等星アルファルド。

酩酊 話せるさ。かれらのことば、

酩酊・明 孤独を抱えた蛇の心臓。

本 (ト書きに) ここにいるんだよ。ゆるしてほしいと言って：。

明かり 空からは、魚の牙が鳴っている。がしゃん・がしゃん：：。

ト書き (歯を鳴らす)

(本を読む) 雷魚、青街灯、暗闇坂、あるいはうしなわれたものたち。汐。おれの住んでいる街の街灯はね、

酩酊 そう、最初から・最後まで・なにもかも。

ふつうと違って青い光をとめます、夜になると道が真っ青に、：：：(ページをめくる) どうとう右手がポケットのナイフを探していた。遠くにあった雷鳴が、いまじゃすぐ近くにきているようだった、だめだった、だめなんだ、それからあいつの頭を掴んで、こうして、浴槽に沈めた。親友の・ナギの体が動かなくなつて：：(ページをめくる) 等間隔の青、道の真ん中にゆったりと泳ぐ、一匹の・雷魚(本を投げ捨てる) すいません、水槽をひとつください。

酩酊が、司書の頭を掴んで、何度も水に沈めると、雷鳴。

ト書き(火影) が酩酊と突き飛ばす

火影

なあ・こいよ。(吠え、倒れる)

「青い街灯の街」

夜。図書館が語っていた「海に向こうのものがたり」

青い街灯が光る中、汐の独白

舞台中央には、沈められた司書が沈められたままの姿勢でいる

司書はナギである。

他の登場人物は、景色のようにして座っている。

彼らは見えないが存在するものとして舞台上にいる

火影は倒れた姿勢から起き上がり、汐の独白に呼応して動き始める

汐

雷魚、青街灯、暗闇坂、あるいはうしなわれたものたち、それは親友のナギと別れた帰り道だった。鈍く酩酊していた。夜が溶けて、アスファルトが煮える。

街灯がまるでメイプルシロップを啜っている。確かなもの……この右手。ああ思い出した、右手から血が出ている。ぼつり・ぼつり。おれの住んでいる街の街灯はね、ふつうと違って青い光を灯します。夜になると道が真っ青に、まるで海の深くふかくもぐった様になって、その日のまっすぐな道はどこまでも青く冷め切った・でもどこか落ち着く知っている光。ぼつり・ぼつりと、正しく並ぶ等間隔の青。こんな日なのに、真っ黒なビロードが暗く深いところと湿る夜の空だった。おかしいな、ビロードの隙間っから、いま月が見えたような気がしたんです。ねえ、月がきれいですね！（笑う）わたし・は・あなた・を・あい・して・いま・す

ひたり。ひたり。ひたり。うしお。

……

うしお！

火影、おまえいつから来た。

……

ほかけ、待て、だ。（歩く）

（付いて来る）

まて・だ、って。このバカ犬。

（笑う）

真っ黒な・火影・と・言う・名の老犬は、ひたり・ひたりとずっと後をついてきていた。それはまるで影踏みみたいでした。

火影は丹念に汐のよろめく影を踏むのでした、まるで縫い付けるみたいに見えました。まるで憎むみたいに見えました・ひたり

ひたり、

おれは頭が夢のようにして、あるはずのない・無駄な星の数を数えていました、

火影

汐

夜さり

泡沫

火影

汐

火影

汐

火影

汐

火影

汐

火影

ひと・つ・ふた・つ・みつ・つ。足取りはその溢れる水の光に揺れるようにたわみました。ゆらり：ゆらり：

火影 ゆらりゆらり

十五夜 ゆらりゆれる汐の影をそれでも黒い犬は正確にひとつ：ひとつ：（踏む）

アカツキ 火影は汐が親友に何をしたかをすべてきちんと覚えていましたから：

火影 （笑う）

全員 犬は笑うのでしょうか。

火影 暴走する猫／空想する畝／灰色の獣／丁寧に嘘を（汐に飛び掛り、おんぶのようになる）知らないんだよ・そんなの・知らないんだよ。

汐 おまえ、みたる。

火影 っー？ 汐 あいつの：ナギの頭を掴んで、こうやって、浴槽に沈めた。

火影 こう・やっ・て？（汐の真似をする）

汐 こうだよ（苛立って、火影の頭をつかんで地面に押し付ける）そんでさあ、そんでさあ！なあ！

火影 （振り払い、吠える）

汐 あっけないな？

火影 うん、

汐 死んだよな？

火影 うーん、

汐 おれ、ともだちを、ころしてしまったよ。ねえ火影、

火影 し・ら・な・い・ん・だ・よ！！！！

汐 （笑う）ばーか。（笑う）ばああああか！！！！

火影 ばかはさあ、ねーえ、ナギ、どうなったっけ。

汐 なあ、おまえみたる、あいつが、動かなくなった後、どうなったかも、

突然火影は立ち上がり、汐の思い出の中のナギに姿を変える

火影 結婚しようと思ってる。

汐 ……！

火影 あいつと結婚しようと思ってる。

汐 いくつなの、違う。

火影 おまえはやってもいいんだぞ

汐 （右手のポケットをさがす。ポケットにはナイフが入っている）

火影・ナギ またか、うしお。（中央にいたナギが起き上がり、火影の姿とリンクする）

汐 ナギ。

ナギ やってみな。

火影・ナギ やってみな。

火影 ゆるしてよ。

夜さり しゅらしゅらしゅら、

十五夜 ぼつり・ぼつり・ぼつり、

アカツキ がしゃん、がしゃん、がしゃん、

全員 がしゃん！！

汐 魚でした。

全員 魚でした。

舞台中央に雷魚が現れる。観客に見える姿は、ナギと全く変わらない。しかし、
彼が、やがてナギとの存在があいまいになっていく魚の姿である。

汐 ナギは言ったんだ、泡沫と、おれの妹と、結婚しようと思ってる・と：そうし

てこの右手が親友と別れた帰り道、おれが、ナギを殺した帰り道、その青かっ
た道はどこなく白く透き通りはじめた、小さな透明な細かい粒子が、道い
っぱいに降り注いでいる、その道の真ん中に：：ゆったりと泳ぐ一匹の大きな
雷魚を見つけた。

ナギ (泳ぐ・牙を鳴らす)

汐 牙の音(牙を鳴らす)

十五夜 白

アカツキ 黒

汐 白と黒の鱗

十五夜 白

アカツキ 黒夜さり 血液

汐 腹が破れて内臓がはみ出している自分の腸を銜えている

十五夜 白

アカツキ 黒

夜さり 血液

火影 Do you the anihilation? Do you the anihilation?

汐 目が合った、なにかをいっているようにみえた。

ナギ またやってみな、

ナギ・火影 やってみな、なあ愛してるからさあ！！！！

火影 アニキラシオ！！

ナギ あいしてるよ！！

汐 (絶叫) 違うんだ、ナギ！

汐は、雷魚に一瞬自分が殺した親友の姿を重ねる、
ナギ、倒れる

汐
（右手のポケットを中身に対して）ほら・なんもないんだからさ。

ナギ
（意識を失ったまま何かを食べている）

汐
安心してよ、みてくれよ！もっかい起きてくれよ！ねえ笑ってよ…笑って

よ！！（強く揺する）

火影
知らないんだ！暴走する猫空想する畝酩酊する空培養する膿、燃える湖桜色の
波灰色の獣に丁寧に嘘を、（吠える）

ナギ
（完全に動かなくなる）

汐
（絶叫）

汐、雷魚を持って帰ろうとする
自分の家の前にたどり着く

火影
（駆け寄って、ナギの首筋を噛み地面に放り投げる）

（火影をひっぱたく）

火影
（唸る）

泡沫！…：なあ・いるんだろ？

椅子に座っていた泡沫が立ち上がる

泡沫
どうしたの、兄さん。

…：ああ、まあ

…：どうするの。

泡沫、

その子。

／可哀想だから、

なんの魚？

飼うんだ。うちで。

兄さん、その子はもっと大きくなる。

…：

おなかがすいたら人を食べる！

そんなら捨ててきてよ。泡沫 汐、

ホラ…：血だらけで、内臓はみ出しちゃってる。その道ふらあって泳いで

て、今にも死にそうだった、きっとナイフで刺されたんだな、悪いやつがいてな、お前、かわいそうだなあ。このままじゃ死ぬよなあ？そうだ・あのまま泳がせてたらこいつ死んでいたよ。泣いてるよ、泣いてるじゃないか！

じゃあ、

……

ほおっておけばよかったのに。

（ふと立ち上がり、ラジオの音として話し出す。内戦が続く遠い外国のニュースは、不穏な予感である）任期満了に伴う大統領選挙の投票、二十日午前七時、日本時間同十一時半開始、国民の直接投票による大統領選は2004年に次いで二回目。反政府武装勢が妨害を宣言、投票所などに対する厳戒下での投票。経済復興や汚職、治安など懸案への対応が進まず、当選に必要な過半数を得票できるかどうか、投票は午後4時で締め切られ、直ちに開票作業。大勢は数日で判明する見通し。有効投票の過半数を獲得する候補がない場合、得票率の上位2人による決選投票が・・アニキラシオ……。アニキラシオアニキラシオアニキラシオ……

やったくせに。

泡沫、

右手の血。（見ようとする）

（右手を隠す）

どうしてナギを殺したの？

あいつが、

あいつと結婚しようと思っているといったから？

……

頷けよ。（汐の頭をつかんで無理やり頷かせる）

（頷く）

だってわたしたちはあるだけの持ち物から幸せになってみたかっただけ、

……

ナギは父さんとは違った。それは汐だってわかってた。

……

死にそうだななんて・理由にならないんだ。ほうっておけよ。

……

窓から叩きつけて、頭と尻尾を引きちぎって、歯を全部抜いて、腹からワタを全部引っ張り出して口に突っ込んだらいいじゃないか！

……

あたし、ナギとさよならしなかった……。

（ナギの首筋を噛んで引き摺りまわす・笑う）

泡沫

汐

泡沫

火影

泡沫

汐

火影

汐 …… 違う。

泡沫 どうして違うの？

汐 …… 違う。

泡沫 言うんだよ。汐 かわいいそう、

泡沫 かわいいそうだから？

汐 ……

泡沫 いいよ…。飼えばいいんでしょ…。

火影 (唸る)

汐 (火影からナギを引き剥がす・泣く)

電話の音

火影 (再びラジオの声) 任期満了に伴う大統領選挙の投票、二十日午前七時、日本

時間同十一時半開始、国民の直接投票による大統領選は2004年に次いで二回目。反政府武装勢が妨害を宣言、

ナギ (受話器を取る) すいません、水槽をひとつください。

汐、ポケットからナイフを取り出し、

電話線を切り裂く、そして、ピアノを弾く「シチリアーノ」

火影 あのうつくしいうみたち。家族で行った最後の山登り。竜胆の花が咲いていた、

母さんの顔が、思い出せないんだ…。

火影 汐、おれね…、結婚しようと思ってる。

泡沫 あいつと、結婚しようと思ってる。

兄さん、

火影 やってみな…。

汐 やってみな。なあ、簡単だよ、お前ならできるからさ、あつというまだ…。

*火影 (*泡沫と同時に) 雷魚、青街灯、暗闇坂、あるいはうしなわれたものたち、

十五ページ十三行目。道・真ん中・ゆったり泳ぐ一匹おっきな雷魚…白・黒・

鱗、腹はやぶれ内臓はみ出して自分の腸こうして。目があった、なにかをいっ

ているようにみえた。愛している愛している・おれ・は・おまえ・を・あい・

して・いる。殺した。何度殺しても殺しつくしても息を吹き返したその言葉を、

最期にあいつがいったならビロードの・こっくり・深い・よぞら。あついいち

めんのくろいあまぐも！覚えてるか！遠く、雷だ！ごろごろごろ、ごろごろ

ごろ

*泡沫 (*火影と同時に) Snakehead, marine-searchlight, dark-downhill, or missing someone.

page 15, line 13.Street. Core. Swingin' a Snake-head. white, black, Scale. Dying, Digest itself do thateating such way. Get its eyes. Seem to say what you are? きれいだねきれいだねね・こんや・は・つき・が・きれ・いた・よね。More soulless and soulless, it's more alive and alive, that that of words, at Last, he said that he yellow, sweet, deep, atmospheric, black, Spreaded Dull Clouds!! You surely remember. In the distance, You here Thunder-Rolling!! Rumble, rumble, rumble...

汐
こんな話じゃない。

* 火影
(* 泡沫と同時) に びしゃん、びしゃん！

* 泡沫
(* 火影と同時) Gush out!! Gush out!!

汐
そんな話し方じゃない。

* 火影
(* 泡沫と同時) に 降り注ぐ道にはまっすぐ続く、等・間・隔、青、青、青。ぼつ、ぼつ、ぼつん。ね、ね、ねじ、ねじれた、川底と雨雲が反対になった。不確かな川底はおれの頭上から降り注ぎ底なしの夜はおれの足元を埋め尽くす、あ、あ、ああー雷鳴だーころころころーびしゃんびしゃん！なあ・お前、見たろっおれ・きつと・ともだちを・ころしたよー！ (汐を倒す)

* 泡沫
(* 火影と同時) ∴ Waving. The Hydrogen which falls, Through the unshaken waterway, there are Jack-O-lantern-of-marine-blue., blue, blue. T, t, t, twi, twistin' The riverbed and therein cloud was up side down. Over the Torrent, My outline is invaded., andbottomless dark was surround to my feet. It, it, it was thunderbird. Corpse, nightmare, and the sleeping Beast, all, all of all, You Just are as you are, I, I, I wanteverything that missing you!!

火影
まだたりないよ、どんなにやってもたりないよ、またくるよーこうだよ、(やってみる) そんなさあ、そんなさあ、なあーねー大丈夫？安心してよーノックの音！ (靴を鳴らす) (ノックの音！ (靴を鳴らす))

アカツキ
(ノック / 足を鳴らす)
E、

アカツキ
(ノック / 足を鳴らす)

火影
E！

アカ・火
もしもーし！

火影
起きろ、起きろよ！朝なんだ、眠れるだとは思うなよ、アカツキがうちにやってきたぞ！

長かった夜が明けて朝になる。

アカツキが勝手に家の中に上り込んで横になっている。

アカツキ
お邪魔しまーす！

汐
アカツキ、

アカツキ 汐、

汐 お前、勝手に入ってくるなよ。

アカツキ 鍵があいてたよ？

汐 だからって、

アカツキ ピアノ？ねえピアノ？ねえねえこれピアノ？

汐 ああ。お前靴脱げよ。

アカツキ はじめてみたよ、

汐 ちよっとな、奥の部屋から出してきた、でも前からあったんだ。靴脱げよ。

アカツキ きかせてよ！

汐 やだよ。（靴を脱がす）

アカツキ エリーゼのために、シチリアーノ、月光、アイネクライネナハトムジーク、え？

汐 なんでやなの？

汐 うるさい。

アカツキ なんで？なんでなんで？

汐 嘘だから。

アカツキ

汐 真剣に弾いたら弾いただけ嘘になるんだから。靴ここ、おいとくぞ。

アカツキ （笑う）なにそれ。

汐 ん？アカツキ 大して上手くなんかなくせに。

汐 :

アカツキ はは、（火影に）ご主人怒っちゃった？

泡沫 アカツキ、やめて。頼んだものは。

アカツキ ああ。じゃあ・（部屋の真ん中に、大きな水槽を置く）はい（代金を要求する）

泡沫 （渡す）

アカツキ 小銭ばかり。ありったけだったの？

泡沫 ほっといて。

アカツキ いいよ。ねえ、水槽・何に使うの？

泡沫 いいからほっといて。

アカツキ うん・じゃあね。さあ・大安売りだよ！猫の首輪・写真立て・レモンガラスの

泡沫 コロンはいらんかねー！

泡沫 弾いてやりやよかったのに。意地悪。

汐 水槽、ずいぶんおっきいんだな。

泡沫 もっと大きくなるんだ、この魚は。

火影 （水槽を覗く）

泡沫 だめよ、火影。

火影 （ドアを鳴らす音）

夜さり
ねえ、水槽返してちょうだい。

火影
(ドアを鳴らす音)

泡沫
夜さりが来た。隠れて。

夜さり
泡沫、今日はいるでしょう！あの子の水槽返してあげて。

汐
金、またあの人に借りたのか。

泡沫
:::

汐
知っていたら、買わなかったかもしれない。水槽。

泡沫
嘘だ。じゃああの子、捨てたのか。

汐
:::

泡・火
同じじゃないか。

火影
結局殺せないんだ、お前は。つまんないよ。

汐
:::
どーせ。

火影
どーせ。

汐
泡沫。

火影
ねえ、魚。動いたよ。

汐
あ。

泡沫
三日ぶりね。::元気になるね。

水にものが沈む音／汐、窓を開ける

汐
::なんだ？

ナギ、扉を開けて入ってくる

泡沫
ナギ？

ナギ
泡沫、よかった元気そうだね：汐は、うん、久しぶり。

汐
:::ああ。

ナギ
何日ぶり？三日くらい？

汐
ナギ、お前、どうして

ナギ
どうして？ってだって・お前は三日前・に、

ナギ
でもご覧の通りだ。

汐
:::

ナギ
お前は中途半端なんだよ。(笑う)嘘だ・嬉しくないんだ？

汐
いや:::

ナギ
(泡沫に)ねえ？こいつどうしたんだよ？

泡沫
あたしお茶を淹れてくるよ。こないだ駐在のタザワさんに貰った。イギリスの、

ナギ
泡沫

いいやつ。
おれわかないよ。
いいんだ。(火影に)おいで!

泡沫は火影とキッチンに行き、部屋には汐とナギと、
部屋にいる雷魚だけになる

ナギ

さてと。

汐

…よお。

汐・ナギ

あの、…:…ああ。

夜さりが椅子から立ち上がり、舞台の周りを走り回る
別の椅子に乗り、足を鳴らしてノックをする

夜さり

ほら、やっぱりいた!話し声が聞こえるじゃないか、わたし聞こえてるんで
すよ、うそつき、うそつき、うそつき!

ナギ

だれ?

汐

金貸しの夜さり。

夜さり

あれはわたしがあげたものなんです、あの子の大切なものなんだ!

汐

(ものを投げるノガラスが割れる音)

ナギ

いいの?

汐

あの人ひっきりなしにくる。

ナギ

夜も来るの。

汐

うん:。そうだ魚移さなきゃ、(魚を抱きかかえる)

ナギ

それ。雷魚?

汐

雷魚?

ナギ

ん、雷に魚って書いて、ライギョ。

汐

へえ、名前の割には、ずいぶんおとなしいんだな、こいつ。

ナギ

雷が鳴るような天気の良い日にだけ活動するんだ、だから雷を呼ぶ魚で、

汐

雷魚?

ナギ

うん、あとは。人を食べるから:

汐

::(水槽に手を伸ばす)

ナギ

(汐の手首を突然強い力でつかむ)その歯は深く食い込んで、雷が鳴っても絶
対に剥がれる事はない。

汐

(驚いて振りほどく)なんだよ、:脅かすなよ。

ナギ

あれ・なんだか、眠たいな:。

汐 ……この間は、悪かった。

ナギ ……

汐 ナギにも、泡沫にも。酷い事をしたと思ってる。どこも痛くないか？

ナギ いいよ、

汐 間違ってた、お前が生きていてくれてよかった。

ナギ いいよ、もう、

汐 泡沫と結婚してやってくれ。なあ…

ナギ いいんだよ。

汐 式いつ挙げるんだ、もうスピーチ考えてあんだ、泡沫の昔の写真もひっぱりだ

したよ。ほらあいつがおもらしして泣いてる写真、恥かかせてやろうと思っ

て！

ナギ もういいんだ。

汐 ……なんで。

ナギ なくなった、結婚。

汐 どうして。

ナギ ……

汐 おれのせいかな。

ナギ よしてよ。言い争いなら、三日前散々したはずでしょ。今日は、汐とやり合う

為に来たんじゃないんだよ。

汐 なにを、

ナギ 謝りにきた。

汐 ……

ナギ 許してくれないか、汐。

汐 許すって…

ナギ もうここまでだ。だから。ねえ・許してよ。

夜さり 返してよ、あの子の水槽返してよ！返してください！！

汐 うるさい静かにしてくれ！なあナギもう、幸せにはなれないの？せっかく、こ

うして

ナギ こうして？

汐 生きて、

ナギ 生きてはないよ、もう。

汐 ……

ナギ 汐がやったんじゃないか。まさか忘れていないでしょ？

汐 ……でも、

ナギ でも？やったんじゃないか。なあ、死んじやったよおれは。

汐 しんじやったって／

ナギ

死んじゃったんだよ！三日前汐がおれの頭を掴んで汐が浴槽に張られた冷たい古いの水の中に何度も汐が沈めて汐が最期は息が止まるまでずっとこんなにしてたらすぐ死んじゃったんだよ！！さようなら！

汐

ナギ、

ナギ

さようなら。

汐

…：ナギ？

ナギ

子供がいるんだ。泡沫のおなかには…、こないだ死んだ、おまえたちの父親の子だよ。あの子はもう知ってるよ。さようなら。

火影

(ドアのノックの音)

夜さり

いい加減にしてください、いつになったら返してくれるの、あたし恥ずかしいです、みっともないのいやなんです、信じてください！

ナギ、扉を開けて夜さを強引に汐の前に連れて行き、

目の前で夜さを殴る

ナギ

許してよ。お前がおれを許してくれたら、それでもう、…：さよならだ。

汐

いやだ。

夜さり

どうして分かってくれないんですか、わたし怒ってるんじゃないんです！

ナギ

(夜さを殴る、蹴る)頼むよ。お前が許してくれなきゃ、おれどうすればいいの。おれはおれのことだけは許す事ができないの、だからお前がおれを許すんだよ。

汐

…：

ナギ

こいつどこかに連れておくね。隣の街、もっと遠く？(帰ろうとする)

汐

泡沫は…？

ナギ

…：

汐

泡沫がさ、お前と同じ名前をこの魚に付けたんだ。それで、毎日毎日・ナギ・

ナギ

ナギ…って、なあ、

ナギ

…：

汐

そうしてお前を待ってたんだ。

ナギ

…：

汐

せめて…、あいつがお茶を淹れて戻ってくるまで、

ナギ

…：きつとおれ、泣いてしまうから。

汐

…：ナギ。

ナギ

じゃあ。

汐

ナギ！

火影が息を吐く／ケトルの音／ナギ出て行く

汐
ほら、お湯が沸いてる、ケトルのしゅうって音が聞こえるだろ、もうすぐ、もうすぐだから……

泡沫
おまたせ。ナギ、……。ナギは？

汐
出た。

泡沫
……

汐
とめたよ。

泡沫
とめたからなんなの。

汐
ナギからの報告。結婚、出来ない。泡沫のおなかには子供がいる。おれらの親

泡沫
父の子みたいだ。さようなら。以上。

泡沫
それだけ？

汐
やっぱり・死んじゃってたんだって……、

泡沫
本当に？

泡沫
ああ、やだ・気持ち悪い……

泡沫、腕を掻きはじめる

泡沫
かゆい、

汐
大丈夫？

泡沫
触るの？

汐
……

泡沫
ううん・なんでもないの。

汐、紅茶を飲む、

火影
汐、どうしてナギを行かせたんか。

汐
……

火影
出来たろう。聞くんだ。

汐
……

火影
出来ただろう！

汐
……

火影
止めたということは信じない、だからお前がそうしたかった、汐はそうやって昔から、泡沫の影を縫うんだ、父親も泡沫も背負わずの癖に、食べ切れやしな
い癖に……。

汐
(火影を蹴る)

泡沫 やめて、最低よ。

火影 お前の手は何も殺さないよ。だから何も守れないんだよ。……出て行けよ！

汐、出て行く

泡沫 かゆい、……助けて……。

火影 ねえ泡沫、大事なことを言うよ。これを全部とってあげられる、必要ないんだ

こんなもんは・泡沫・任せてほしいんだ。

十五夜が窓越しに現れる、窓を叩く

泡沫 十五夜。

十五夜 久し振りだね。

泡沫 腕……、何処にあるのか分からないの。

窓越しに腕が絡む

十五夜 ねえ、さわれないよ。入ってもいい？

泡沫、十五夜を家に招き入れる。十五夜、泡沫の腕をつかむ

泡沫 ねえどんな形してるの、ここにあんのか、ほんとなの？

十五夜 ……

泡沫 (泣く)

十五夜 あたし、かわろっか。

泡沫 (首を振る)

十五夜 かわりたい。

泡沫 ……

十五夜 あたしだけが、泡沫を分かってあげられるのに。

泡沫 どうしたってひとりなんだ。

十五夜 ここにあるよ、こんな形をしているよ、ここでまがるよ。こんな風に伸びるよ。

きれいだよ。私は泡沫の友達だから、泡沫のこと全部分かる。泡沫の体の輪郭も・こころの中身も全部知っている……、ねえ……。

泡沫 こどもができたんだ。

十五夜 そう。

泡沫 ナギとの子供じゃない。父さんの、こないだ死んだ父さんの……。

十五夜 そう。

泡沫 兄さんがナギを殺したの。ナギはさよならも言ってくれなかった。

十五夜 ……

泡沫 父さんが…

十五夜 だったら、あたしも汚いね。

泡沫 十五夜。

十五夜 ねえ、かわろう？

泡沫 ……（眠る）

泡沫は眠り、十五夜と入れ替わる。

アカツキ どしたの？

十五夜 眠ったの。なにしにきたの。

アカツキ 十五夜はいいんだ？我慢してるんだ？

十五夜 うるさいな、

アカツキ もうすぐ夜が来るよ？潮が満ちていく音の中に、魚の足音が聞こえるね。しゅらしゅらしゅらしゅら…。汐が本を書いている。「雷魚、青街灯、暗闇坂、あるいはうしなわれたものたち」

十五夜 うるさいんだよ！

アカツキ 寂しいな。お姉ちゃんがどっかいったよ。

十五夜 お姉さんがいたの？

アカツキ 眠る前には、いつも歌を歌ってくれてるよ…。汐は眠ったの？

十五夜 そうよ、

アカツキ じゃあもうすぐ、あんたの番だ…。あはははは！

十五夜 （その場から離れる）

アカツキ なにしてるの？

十五夜 ナギにご飯をあげるんだ。

アカツキ その雷魚、ナギっていうの？

十五夜 ええ。ねえ、もう帰って。悪いけど。

アカツキ ちよっとみしてよ。

アカツキ、水槽を上から覗く。ナギがアカツキを食べようとする

アカツキ あははは！あぶないんだ！

十五夜 だめよ、雷魚は人を食べるから。

アカツキ ばちやばちやしてる。

十五夜 痛癢を起こしてるんだ。あんたを喰い損ねたって。

ナギの動きに合わせて、泡沫の体が痙攣する

十五夜 ……なに？

アカツキ なにかほしいものがあるでしょう？あたし持ってきてあげようか！大変だよ

大変だよ！すぐだよ！

十五夜 うるさいんだよ！クソガキ！！

夜さりが遠くで歌を歌っている「シチリアーノ」

アカツキ あ、お姉ちゃんだ。ねえ十五夜、お姉ちゃんが帰ってきたよ。

泡沫 助けて、

十五夜 泡沫、

泡沫 ねえ、ナギ、痛いよ、助けて。（水槽に近づく）

火影 だめだ。

（振り払う）ねえ、ナギ、きみは許して欲しいと言ったけど、嘘だ、許して欲しかった、わたしが許して欲しかったんだ、父さんは、父さんはね、ねえ、あのね。……怖くなんてなかった。父親に似ているきみのこと、兄さんは怖がってたけど、でもわたしは私の行く末をここに決めていた。じゃあ許しあおうよ、許しあえるよ。こんなものは全部あげるから。

火影 泡沫！いけません！

電話が鳴る。汐、本を書いている。眠っている

汐 雷魚、青街灯、暗闇坂、あるいはうしなわれたものたち。二十一ページ。

アカツキ もしもし！おかえりなさい、やっぱり本を書く音だったよ。お姉ちゃん！

泡沫 兄さん：

泡・十五 また、眠っているんだね？

汐 それは三日前、ナギは言ったんだ。汐、おれね、結婚しようと思ってる。

汐・ナギ 泡沫と、結婚しようと思ってる…

汐 すぐにナギにこう聞いたんだ、

汐・ナギ どうして？

汐 そしたらナギはこう言った。

汐・ナギ 愛してる。

ナギ 愛してる。

ナギ・火影 おれは、あいつを愛してる。

汐 なんどもなんども聞いた。何度殺しても殺し尽くしても息を吹き返したその言葉を、最期にあいつが言ったんだ。海と空はいっぺんに色を変えた。波が高くなり、あれは：雷雲だった。潮が満ちて、砂浜の生き物たちが慌ただしく蠢きはじめた。魚の足音がした。雷魚だ。雷魚が満ち潮から逃げているのだ。あれはあの魚は肺を持っていて、海でも陸でも生きていけるが、だが海と陸のどちらかを選べるといってわけではない。沈み続ければ溺れ、乾き続ければ干からびる、生き辛い魚。おれたちは魚から進化して生まれた。そしてあの雷魚の互換性とそれゆえの不完全さを併せ持ったまま、いまもこうして、狭間で息を染めている。

汐の前のセリフを待たずに以下展開

父親が生きていたことの記憶

火影が汐・泡沫の父親、夜さがりが泡沫、アカツキが汐である

火影

（夜さを連れてきて）なあ、こいよ。慣れてんだろ？お前の婚約相手のナギってやつ、

ナギ・火影 おれにそっくりじゃねえか。（ナギ、嘔み付く）

夜さがり ひどいよ、父さん。

ナギ お前は泣くとかわいいな。

火影 その顔・ずっと見たかった。

アカツキ 父さん、何してんだよ。

夜さがり 兄さん。

ナギ・火影 ああ、汐、帰ってたのか。

アカツキ 泡沫に、なにしてんだよってんだ！

ナギ （笑う）

アカツキ ずっとなのか。

ナギ （笑う、笑う、笑う）

アカツキ 離れるよ！はなれるよ！いいから！！

ナギ・火影 なあ、こいよ。

ナギ やってみな。

火影 お前もやってみな。

ナギ なあ・簡単だよ。お前なら出来るからさ、あっという間だ……。

ナギ・火影 （笑う、笑う、笑う）

夜さがり 兄さん、怖いよ。怖いよ、怖いよ、怖いよ！

アカツキ、殴りかかるが、火影とナギに押さえつけられる

アカツキ

おまえなんか、お前なんか父親じゃない！！

汐

（本を落とす／眠っている汐の中に、死ぬ直前の父親の言葉が蘇る）汐、お前、何言ってるんだ。見ろよ汐・父さんは・家族を、ちゃんと愛しているじゃないか。

（絶叫／ポケットのナイフ）

夜さり

汐・おれね・泡沫と・結婚しようと思ってる。

アカツキ

どうして？

十五夜

愛してる

アカツキ

愛してる

ナギ

おれは・あいつを・愛してる。

火影

おれは・あいつを・愛してる。

汐

（ナイフを振り回す、みんなを刺す、ナギを刺す）ナギは笑ったんだ。笑ってさ、笑った顔が、親父の顔にやっぱり良く似てた。歯がこんでさ、働きの手をしてたそれが・この右手をぎゅっと掴んで離さなかった。ナギはナイフじゃまだ死ななかった、それで、

ナギ

（笑う）またか、

全員

またか、汐。

ナギ

おまえはなにも殺さないよ。

汐

遠くにあった雷鳴が、いまじゃすぐ近くに来ていようだった、だめだった、だめなんだ、それからあいつの頭を掴んで、こうして、浴槽に沈めた。

夜さり

ほんとうに、眠っているの？

十五夜

そう眠っている。眠りながらこうして、毎晩毎晩本を書く。自分の言葉、言えなかったこと、そんなはずじゃなかったほんとのこと、それから、汐、

汐

（十五夜を突き飛ばす）泡沫、いるんだろ…。

十五夜

ここよ。（汐に覆いかぶさる）

泡沫

十五夜、

汐

ナギは親父に良く似てた。

汐・火影

関節のあるごつごつした手、少しエラの張った顎、メガネを掛けててさ、なにを考えているか分からない、怒ったところなんか似たことがない、音楽が好きだったけど、何にもきつと知らない振りばかりしてた。

汐

親父が母さんを殴ったこと、母さんが首をつって死んで、母さんが死んだら泡沫を犯したこと。なんもしらなかった、ぼくは家族じゃなかったのか、父さんは家族を、愛してたんだってさ、泡沫、夜さりねえ、泣いてるの、泣いてるでしょ？汐 泡沫、愛してるってなんてつまらないだろう、愛してるなんて…ここにずっと居させてよ、どこにもいかないでよ？一生守るからさ…。

アカツキ

やめて、痛いよ、痛くなる。

夜さり

あのうつくしいうみたち、家族で行った最期の山登り、竜胆の花が咲いていた、母さんの顔が、思い出せないんだ……。

汐

泣きながら、ずっとあいつの頭を浴槽につけてた、それから永遠くらい長い時間がたって、自分の腕に爪を立てて居た力が唐突になくなった。そしたらね、嘘じゃないぜ、ナギの体はみるみる冷えてふやけていった。

夜さり

ねえもう話さないで、倒れてしまうから、もう倒れないで。

汐

そしたら最も酷くふやけていた指の先から、ナギがぶよぶよと溶け始めた。爪がなくなり指がなくなった。それから腕・肩、同時に足の先から胴もあつと言う間に溶け出して、最後に頭がなくなつたこれがひとつ息をつくうちのことだった。そしてナギのからだの輪郭の一切はなくなり浴槽いっぱい肉色の水が完成した。たゆたう水を眺めていたら脳裏に水から再び人間に復元する友人の姿が錯綜して、ナギ、ナギ……

夜さり

逃げて。うしお、逃げて！

ナギ

（浴槽から手を出して）うしお、許してほしいんだ、おれはおまえにおまへえだけにゆるしてほしいんだ。

汐

（嗚咽）

夜さり

汐（目に手を当て）あの目を見てはならない、あの水を飲んでほならない。

汐

（動かなくなる）

夜さり

（アカツキを揺り動かす）大丈夫みたい。

泡沫

いつもこうなんだ、夜になると眠ったまま本を書いて、泣いて、

泡沫・十五

それでさわるの。

アカツキ

いやだ、やだ、やだ。

夜さり

もう遅いから帰ろうね。（首を振る）

アカツキ

一緒にじゃなくちゃいや。

夜さり

後から行くからね。

アカツキ

（頷き、去る）

十五夜

アカツキのお姉さん、だったんですね。

夜さり

あのね、あの子はね、私が居なきやだめなんです。あなたたちがなにをやっても自由です。勝手ですよ、でも、アカツキからだけは奪わないで。あの子があなたたちにあげているものは、全部私があの子にあげたものなんです。こんなはずじゃなかった。

十五夜

夜さりさん？

夜さり

だってあの子にだけは罪がない。どうしてだろう、対外的なのに、もう一回最初からやり直すことは出来ないかしら？そしたら私次こそ最初から最期までなにもかも上手くやるのに。だれも傷つかない、私もうしなわれない、最適な行

十五夜

夜さり

泡沫

動をしてみせるのに。もう遅いんだ、わたしがあの人に出会わなければ良かった。だからせめて憎んでもらいたい、(首を触る)そうして一生・ずっと・わたしを忘れないで……。

憎むなんて、あなた・なんの関係があるんです。

あるの・あるの……。

汐、汐は憎んでますか。父親に良く似たナギを、好きになってしまった自分の妹のことを。汐はこの気持ち、父親との傷のためだと言うんだろう。たしかに父さんのことは……でもね、そうなんだよ兄さん、わたしにとって・憎むべき父親とは一体誰のことだろう？犯された実の親か・父親の面影を持ちさよならも言ってくれなかった恋人なのか・それとも父を殺し恋人を溶かし殺した兄なのか。憎むべき父親の影とは、それは・一体・何のことなんだろう？

泡沫、汐の髪の毛を撫でる

泡沫

あの目を見てはならない。

火影

Don't look its eyes.

泡沫

あの水はけして飲んでではない。

火影

Never get his water.

*泡沫

(*火影と同時に) 私たちは魚から進化して生まれた。あの雷魚と言う魚の不完全さはあれが正に進化途上であることの証明です。ナギがきみに手をかけられ：水に溺れ死んだ三日前ちょうど同じ日にやってきたあの雷魚は、必ずナギの生まれ変わりだ。あの狭間の魚はみるみる大きくなり、きっと人間に変わる、ひらめくように。そうして彼に再会できる。そうしたら次こそ許してもらおう。(また彼に会えるのだ。食べてもらおう。そうして、ふたりで水に溶けてしまおう。溶けてしまわなければ、このままでは壊れてしまう)けれど何か壊れていくのはとても楽しい。でも私は私の中で首尾一貫しているつもりだった。なにが間違ってたんですか、なにが……。

*火影

(*泡沫と同時に) (It's known that human beings evolve from fish, coz snakehead is kimera which hasunperfect fish's gills and human's lang.I believe that the snakehead is my lover camehim across dying he melt water away. It will be bigger soon whose color is glue, moreit will be him, as my sun. What it be is what he is. Therefore,I shall meet him again.)That all, I want to be pure for him. I can get his arms without rules. Why dont youbite and eat all of mine? Whould you like swift in the sea like a mermaid of shantwins? Want to be a water, to be unchained. If this chain was the wheel of fortune, itwould turn me off in pieses of million. My brother said you must be crazy. it's true,because is's my heaven that death in me is. Never, I could been had royal rates

and I'm the coherence trail named "faithful woman". What's my error?

Ophicephalasmacutus!!

夜さり

ねえ・夜よ……。どうせまた朝は来てしまうから、朝が来ればまたあなたたちはきっと涙を零してしまうから。だから夜は眠って。思い出さなくていいよ考えなくていいんだよ。誰も悪くない、悪いとしたら・それはわたしだけ。分らない・分かりたくないよ・分かってもらえなんて思わない。分かって欲しいなんて気づきたくなかった。ねえ、楽しいの？それは、ほんとうに、世界で一番楽しいの？倒さないように・倒さないようにと、まだだれも、倒れないで……。夜が来て、そして暁……。

朝／汐、目を覚まし、ラジオをつける

火影

時刻は午前八時となりました。日曜八時から・街のみなさんにとっておきをお届けするマリンウェイブ・オン・ワイアード。みなさーん、おきてますかー、グッモーニンー！眠い目をこすっているそのあなた！そんな顔してちゃダ・メ・で・す・よーっ。窓を開けてみてください、うーん今日はとってもいいお天気、お出かけ日和のウィークエンドですね。本日の最高気温は十九度、東南沖からのひんやりな風が市場の通りを気持ちよく吹き抜けます。それじゃあ、……：ただいま緊急ニュースが入りました。駐在のタザワさんですが、行方が分からなくなっております。自宅が荒らされており、奥さんとお子さんについて行方不明です。警察では、犯罪に巻き込まれた可能性もあるとみて・現在捜索中とのこと。タザワさんの安否が気遣われます。繰り返します……。 (繰り返す)

汐

おい・泡沫、起きろ。

泡沫

どうしたの？(ラジオを聴いて) うそ。

アカツキ

さあ、大安売りだよ、サンダル、麦わら、犬小屋はいりませんかー！

汐

おいアカツキ、新聞あるか。

アカツキ

あるよ。何でもあるよ。おはよう！

汐

買ってやる、いくらだ。タザワさんの記事載ってるな？

アカツキ

載ってるよ。ピアノ弾いてくれたらタダにする。

汐

買ってやる、いくらだ。

アカツキ

ありがとう、ピアノ弾いてくれたらタダにする！

汐

(鍵盤を叩く) はい。

アカツキ

ピアノを、

汐

(鍵盤を多めに叩く) はい。

アカツキ

ひいてくれたら！

汐 (ねこふんじゃった) はい!

アカツキ アイネクライネナハトムジークがいーなー!

泡沫 はやく弾いちゃいなよ。

汐 だってそれオーケストラ。

泡沫 じゃあシチリアーノ。

汐 …… (シチリアーノ) くれよ!

アカツキ (ノリノリ) ありがとうお礼に読んだげる。昨夜未明。

汐 貸せ! (泡沫と読む) うちの近くだったんだ。

アカツキ 昨日の夜帰り道に、タザワさんとはすれ違ったよ?

泡沫 ほんとう?

アカツキ あたしは嘘言わないんだから…。汐の家の裏側に走っていったんだ。きっと落

ちたよ。暗闇坂に…。もう帰ってこれないかなあ…。残念だなあ、あたし大好き

きだったのに、(笑う、シチリアーノを歌いながら)

夜さり (シチリアーノ)

アカツキ お姉ちゃん!

夜さり またきていたの。

アカツキ うん

ナギが水槽で暴れている

泡沫 ナギ、どこかいたいの?

ナギ (牙を研ぐ)

汐 だから、…魚なんだよ。…お前、頭がおかしんじゃないのか。(出て行く)

十五夜 心が動いたの? ねえ・いまざわっとしたの。つらいでしょう、もう、見なくて

いいの、私がこの魚を育てるから。(泡沫のおなかに耳を当てる) 水の音がす

る。(えさをやる) ちゃんと餌をやらなきゃ、また泡沫のナギが死んでしまう。

そうねちゃんと…毎日ご飯をやらなきゃね。もし一日でも餌を怠ったら、この

魚は、人を食うよ。

…

十五夜 人を喰いきったら自分のヒレを食うよ! ヒレ食って尾を食って胴食べて、最後

に頭だけで水に浮いて、

心臓を喰いきったら、おしまいだ!

…

十五夜 ……は。なに…。有名なお話じゃないか。

夜さり おしまいになったらどうなるの?

アカツキ 水に溶けんのさ。

十五夜

…:…!

夜さり

水に溶けた恋人が生き返ったんだって？それは幽霊じゃなくて、幻でもなくて、溶けたナギが魚になって、進化して？なに？

十五夜

…:

夜・アカ

なんのために？

泡沫

なんのために？

夜さり

殺されて蘇ったやつがすることは、…:…決まってるのさ！

泡沫

どうして。

十五夜

泡沫、相手にするな。

夜さり

あなたが憎くて憎くてきつとナギは水の泡から吹き零れた復讐になった。汐も、泡沫も、それから自分自身をも喰い殺して、彼はまた水に還るのさ。

泡沫

どうしてそんなことを言うの？

夜・アカ

泡沫がこの子になにも返さないからさ。

泡沫

あたしはなんも、

夜さり

なんも覚えてなくても、あなたの小さな手は私を求めていた。あたしはそれにこたえて、あなたの欲しいものをあげ続けて、わたしがその意味をなくしてもわたしの持ち物は減って…:…。

十五夜

…:

夜さり

わたしこのままじゃ帰れないんです。

十五夜

なに。

夜さり

きちんと取ってくるようになって、きつく言われてるんだ。

十五夜

うるさい。

夜さり

手ぶらで帰ったら、何をされるかわからない。

十五夜

うるさい！

夜・アカ

うるさいうるさいうるさい！

テレビの音がするノドアを強くたたく音

アカツキ

返してよ、返してくれるって言ったじゃないか、嘘つき、悪魔、死んじまえ！！

夜さり

シラを切り通せるなんて、思わないで。…:…わたしがいなくなったって、代わりはいくらでもいるの…:…。

夜さり、部屋の電気を消す。部屋が暗くなる。雷鳴。

泡沫

(泣く)

十五夜

泣かないでよ。

泡沫 (泣く)

十五夜 泣かないですよ。

泡沫 :::

十五夜 泡沫が泣くと、こっちまで泣きたくなるから。。。でも、わたし涙を持ってない
。。。。

泡沫 (餌をやる)

十五夜 自分で出来る？

泡沫 うん。

十五夜 そう。私、すこし眠るからね。夜になったら起こしてね。。。。

泡沫、餌をやる。水槽を吹き上げる。

(内セリフは発話なし/身体のみ)

泡沫 (あなたなんでしょ?)

ナギ (あなたなんでしょう?)

泡沫 (ねえ、もっと、ちゃんと、見せて) (水槽を磨く、磨いても磨いても汚れが取れない)

ナギ (内側から息を吹きかける)

泡沫 (外側から息を吹きかける)

ナギ (Do you the anikillation?)
違う。

泡沫 (Do you the anikillation?)

ナギ (：：汚れてるの)

泡沫 (否定する)

泡沫 (そんなことはありません)

水槽の中の雷魚がはじめて現実にことばを話し始める

(しかし泡沫以外には聞こえていないのだろうか?)

ナギ おれ、

泡沫 ……?!

ナギ きみのお父さん：：似てる・かな・

泡沫 そんなことない・そんなことないよ。ねえやっぱりナギなんだよね?ねえ

ナギ (牙を研ぐ、噛みつこうとする)

汐 (泡沫を押し倒す)

泡沫 だれ。だれのかげなの。

汐 おれだよ、泡沫。

泡沫 うしお。

汐 いま、魚と話してた？魚と……

泡沫 痛い、

十五夜 泡沫、代わって。

汐 魚なんかと……

十五夜 眠ってないくせに、おまえも結局おんなじか？

汐 あのさあ、死人の言う事は嘘ばかりだぜ。

十五夜 違う。

十・泡 あたしには分かる。

汐 (十五夜を抱きしめる)

十五夜 ナギは、泡沫に一度もこんなものしてこようとしなかった。彼女の傷を、

泡沫 あたしと父さんのことを聞いてたから。

十五夜 知らないんだ、あんただけ。

汐 なにを……しらないっていうんだ……

十五夜 ばか……

泡沫 (泣く) 十五夜は泣かない。なにをみても。なにをされても。だから代わりに

泣くんだ。かわりになってくれる十五夜のために、いつも十五夜の涙を流す。

そしたらもう、なにも見えない……

ナギ じゃあ・なに・か・聞こえる？

泡沫 水の音がするの。お父さんとしたみたいなことを、お兄ちゃんと友達がしてい

るよ・お父さん……。何度も何度も入ってきた・父さんの影が・いつまで経って

も消えない……！

ナギ (髪の毛にキスをする)

泡沫 ねえ・いま何時なの？

ナギ (笑みを浮かべる) な、な、波音。だ。

泡沫 魚の足音こっちにきてる。

ナギ・火影 (耳を当てて) 影を消す方法、……教えてあげるよ。あかり、つければ、いい。

きみのへやを……。まっ・しろに・あかりをつける。

部屋が明かりで真っ白になるが泡沫の足下に影が残っている。

泡沫、影から逃げようとするが、自分の影が付いてくる。

ナギ (笑う)

火影 こっちだよ(手を鳴らす) こっちだよ！

泡沫 あたしの影が消えない！あたしが！

ナギ 愛しているよ。(泡沫の腕を食う)

十・泡 (悲鳴)(泡沫、同時に笑う)

全員 (立ち上がり本を開いて) だから泡沫は汐を殺すことにした。

夜さり 自分の影を消すために。

アカツキ 自分の傷を縫うために。

夜・アカ 自分の兄を自分の汚れそのものとしてなくすことにした。

ナギ だから彼女は、ナギに言われるがままに、再会のために、自分の部屋の明かりをどうとうつけることに、

全員 泡沫は汐を殺すことにした。

泡沫 (電話を掛ける) もしもし、アカツキ。

夜さり ああああああああ！たすけてえええええええ！

泡沫 (切る／掛け直す)

アカツキ はい。

泡沫 ……

アカツキ 泡沫？

泡沫 アカツキでしょ？

アカツキ そうだよ？

泡沫 さっき掛け間違えたみたいで、いましらないひとがでたの。

アカツキ そう？それで、なにかほしいものがあるんだろ？

火影 イギリスの紅茶。

泡沫 イギリスの紅茶。それから、…それから。

泡沫・火影 ありったけの…

アカツキ 言わなくていいよ。泡沫の欲しいもの全部分かる。あたしはそれを最高の形で最高のタイミングであげる。なんにもいわなくても泡沫がそれを思う前からあたしには分かる。

泡沫 ……

アカツキ 今泡沫の家の前に配達人がきているよ。

泡沫 ……

アカツキ そいつはドアの前に立って、荷物を置いたら、扉を四回ノックする。

火影 (四回ノックの音)

泡沫 (確かめにいこうとする)

アカツキ 今から言っても無駄だよ、ノックしたら走って逃げるように言っている！

泡沫 (家の外に出る。荷物を持ってくる。荷物を開ける)

火影 汐がいつも飲むの紅茶・ありったけの毒だ。あのね今日ね、なにくわぬ顔をして紅茶をいれようね。同じようにしてるんだ、なんにも知らない顔。

泡沫 どうして。

アカ・火影 (早口に) These are the usual seiron and the everything to anikillation(overkill)your shadow.

泡沫 あたしは！

アカ・火影 You go to the Grand Alice's Tea Party!! Just Kill the White Rabbit!! (笑っ)

夜さり たすけてええええええー!!

泡沫 違う！

火影 (電話を切る)

十五夜 本物だ。

泡沫 ……

十五夜 泡沫は、どうしたい？

泡沫 (椅子を蹴り飛ばす)

火影 (椅子を元に戻す)

泡沫 (火影を撫でて、座りうなだれる)

火影 やっぱり。

十五夜 ……なんだ。

泡沫 わたし。わたしさ、やっぱりわたしが可愛いんだ。

泡沫・十五 (同時に笑う)

全員 (本を読む)そして汐も同じように。

夜さり 自分の影を踏み殺し、

アカツキ 自分の傷を縫い契り、

アカ・夜 自分の友人を自分の罰そのものとして。

全員 雷魚を殺すことにした。

夕日が差し込む部屋。汐、雷魚のもとへと進む。火影に止められる。

火影 (吠える)

汐 (振り返るが、行こうとする)

火影 (吠える・飛び掛る)

汐 (振り払う)

火影 (噛み付く)

汐 なんだよお…だって、だってもうだめなんだ！

火影 またそうやって！なんども！

汐 ……(行こうとする)

火影

刺したね、沈めたね、しかしながら、だれも死んだりなどはしていないね。汐、結局のこるのよ、ずっといつまでも、みんないきているの、ひとはうまれてだれかの目・ふれるたび言葉・身体交わすたび・それぞれのこのへん・ぼつり・

ぼつり・雫をちょっとずつ垂らしあっていくよ？その零れたみずはいつまでもいつまでもいつまでも剥がれない、あなたの右手の血がとれないことはおんなしよ、うしお、

(泣く)

汐
火影 ないたってだめなんだ、汐。おまえはおとこのこなんだからね。

汐
火影 ……？

火影 ぼつり・ぼつり、ほらほらみずのおとがする。

ナギ
(泳ぐ)

火影 お前の気が済むんなら、わたしはそれでもかまわないよ。

汐
ほかけ、

火影 教えてえやあうしお、あれ魚やろう？それとも自分が殺した男か？ナギか自分のちちおやか？

汐 おれは信じていない！おれは

火影 ああそうだった！

ナギ やってみな。なあ！こいよ。

汐

汐と雷魚が闘う。汐はポケットからナイフを取り出す。火影吠え続ける

汐はめまいがして、倒れこむ。

そこに雷魚が上からナイフを持って刺そうとする

汐 信じてなんかない。おまえはただの雷魚だ雷魚だ雷魚だ！でももしそうなら？

ナギ、もし本当におまえならおれは！

火影ノしゅうという音。泡沫が紅茶を沸かしている。

ナギ・火影 (ナギ、ナイフを手から離す) だめだ。 ……なあ、きっと・おれ、泣いてしま
うから。

汐 (ナイフをポケットにしまい) ……ナギ。

ナギ じゃあ。(去ろうとする)

汐 もう行かないでくれ！ナギ！！

ナギ なんだ。

汐 ……今何て？

ナギが突然優しい顔で振り返る。汐がナギを殺す前のいつもの日常になる
しかしその日は、ナギが汐に泡沫との結婚を報告した日、
ナギが殺される直前の風景

ナギ 子供みたいな顔して……。

汐 ああ。あの・いきなり大事な話なんていうから、いまなんて？

ナギ 結婚しようと思ってる。

汐 あ、

ナギ 泡沫と。

汐 ……

ナギ 結婚しようと思ってる。

汐 ……おめでどう。

ナギ ありがとう。……ありがとう。お前に・そう言ってほしかった。

汐 ……ああ。おめでどう。

火影 どうして？

汐 どうして？

ナギ え？

汐 どうして？……していたじゃないか、しているじゃないか、おれはそうは思っ

てない・でも・ナギは・似すぎてるんだ父親に・おれたちの父親に・ナギあ
の犬、はじめてみるな。

火影 (吠える)

ナギ 拾ってきたの？

汐 泡沫が拾ってきたんだ、先週、ナギあの子、

ナギ 先週？……うたかたが。

汐 ……

ナギ いや、なんも、

汐 そうだよ。父親が死んだ日さ。おれが、親父を殺した日にあの犬はやってきた、

だから、やなんだよ、もう、ふざけんなよ、おれは、ナギ、みんな汐・火影お
れはだれをころしたの？なあ！

汐 どうして？

全員 どうして？

汐 どうして結婚、するんだよ。

ナギ 愛してるから。……彼女を、守ろうと思った。

汐 やめろ、やめろ、やめろ！！！！

ナギ なにか？

汐 だめだ、愛してるなんて、愛してるなんて、うそだ、理由がない、

ナギ 愛してるよ。

火影 愛してる。

全員 おれは・泡沫を・愛してる。

ナギ

知っているよ、確かに良く似てる。あのひとが自分の娘に何をしたかも知っている、お前から何度も聞いた、泡沫は何も話さなかった、おれも問い詰めたりはしなかった、でもね、泡沫が三ヶ月前、お前が父親を殺したその日に、一度だけ話してくれたの。わたしはナギ・泡沫 わたしは父親が怖かったわけではありませんなナギ 許していたわけじゃない、でも父親がこわかったんじゃないと、ただ自分は夜の足音と兄の足音を恐れていたと。泡沫ね、お前が父親を殺したその晩に、おれの家のドアをそっと叩いた。雨が降っていたよ。僅かな音もしないかすかな小雨の夜だった。

火影

(ノックの音)

ナギ・火影 扉を開けると、

ナギ 髪の毛を細かい雨でいっぱい濡らした泡沫が、玄関の前に立っていた。

泡沫 兄さんが父さんを殺しました。

ナギ ::

泡沫 兄さんがわたしを守ろうとしてひとを殺してしまいました。

ナギ ::

泡沫 わたしが殺せばよかった。

ナギ ::

泡沫 我慢なんかしていないで、わたしが父親をころせばよかった。兄に人を殺させてしまった見ていることしか出来なかった

ナギ うたかた、

泡沫 どうして。どうしてわたしの身体はいつも動かなかったんだろう、父親が怖かったわけではありません、兄が怖かったわけでもありません。ましてやナイフが怖かったわけじゃないんです。父親が兄にもたれ掛かるようにずしりと前のめりで倒れ、床に血がどくどく流れ、

泡沫・火影 こわかったのは ::

泡沫 兄がナイフを忍ばせていたポケットに、一緒に入っていた桜色の貝殻でした。

泡沫・火影 泡沫、泣くなよ、なくなよ ::

泡沫 兄さんはそういつて笑って、血まみれの手で・わたしにその貝殻を渡してくれました。わたしはそれが本当に怖かった！ねえナギ、兄さんを守ってくれませんか。

ナギ 汐を？

泡沫 兄は小さな貝殻をこの町の真っ白な浜辺から見つけて、きれいだなと思って、それをポケットに隠し込んでいたんだ。飾ろうと思ってたんだるか、ネックレスにしようとしてたんだるか、あたしにくれるつもりだったんだろう、ピンク色の貝を・果てしない海を・小さな島を :: いつも潮のにおいの湿り風・サンクチュアリと名づけた丘の上のベンチ・夜になれば海になる青街灯・終わらない

波・ペンキを塗ったびかびかの赤い屋根・アップライトのピアノ・家族みんな・妹のことを・きちんと正しく愛している人に、わたし・親殺しをさせてしまいました。汐を守ってナギ、汐が倒れてしまう、倒れてしまう。

ナギ 泡沫・大丈夫・もう大丈夫だから、

（笑う）

火影 そのときに・おれは・泡沫を守ろうと決めました。そして・彼女を守ることで、
ナギ 汐・おまえを・みんなを守ろうと思いました。

ゆっくりと現在に戻る

汐 ……

ナギ おれがすべて守れる。親愛なる友よ、泡沫を守るためだけなのにお前は父親を殺すべきじゃなかった。今父親の影が泡沫にまわりつき、そしてお前の顔を陰らせそうして、おれもやがて暮れていくがその影を、おれは彼女の部屋のあかりを照らさないままに食べてしまえるほどに、おれはこれから彼女の彼女の父親を守ってみせる。

汐 （ナイフを探す）

ナギ おれのなかで…

火影 研ぎな！

ナギ いいぜ、やってみな！（牙を研ぐ／噛みつく）

汐 ああ！

ナギ 紅茶だ。なあ、おれ、泣いてしまうよ。汐！

火影 （泣く）

ナギ うれしいよ、こうしてまたおもいだすことができる。

ナギ・火影 等しく並ぶ青。雷鳴だ。なあ、三日前のおれたち、あれは殺し合いなんかじゃなかったよなあ。おれたちはお互いに…これで最期だと思って…それぞれに別れの言葉を言っていた。おまえおれを浴槽につけたとき、なんていったか覚えてるかお前はおれを、殴り付けて、

汐 アニキラシオ：

火影 そうだ…。

ナギ お前、殺しすぎだ。

汐（電話をかける）もしもし、誰か、誰か！

火・アカ 紅茶。紅茶に毒が入っているよ。

汐 ……

火影 泡沫の用意するイギリスの…いいやつ。もっかい殺したら、何度だって殺しなおしゃいい。そしたらお前は手が今度なら父親が殺せるよ。

アカツキ やれよ…。
火・夜 泡沫を正しく守ってよ！

汐と泡沫が隣り合ってゆっくりと歩く。
バージンロード、そして影踏み。泡沫が紅茶を入れてやってくる。
ナギは水槽の中。

泡沫 汐。紅茶を入れたの。
泡・アカ 飲んで。

夜さり あの目を見てはならない、あの水はけして飲んでではない。

汐、水槽の中に紅茶を入れる。ナギが毒を飲んで水に浮かぶ。

火影 (笑う) お前の影だ！！

アカツキ Just you much kill White Rabbit! Crazy hat! You are none!

夜さり (悲鳴)

火影 (笑う)

汐 足りないよ…。

泡沫 兄さん、

汐 足りないよ、どんなにやっても足りないよ、またくるよ！(ナギをナイフで刺す) またくるよ、こうだよ！

汐・アカ そんなさあ、そんなさあ、なあ！！

泡沫 やめて！

汐・火影 ねー安心してよ？

泡沫 どうして？

汐・夜さり どうして？だって…

汐 おれは、おまえを、

泡沫 ……

汐 (笑う) 違う(笑う) 残念だったな！(笑う) 父さん、父さん、ねえ：

過去の声

十五夜 お父さん
夜さり お父さん
アカツキ お父さん
全員 生まれましたよ

夜さり 生まれましたよ・男の子です

十五夜 嵐の夜にやってきた・勇敢な子

夜さり 汐と言う名前をつけましょう

十五夜 お父さん・生まれましたよ

アカツキ 女の子です

夜さり お兄ちゃんの汐に・しっかり守ってもらえるよう

十五夜 泡沫という名前を付けましょう

夜・アカ きっとお姉さんも浮かばれましょう

十五夜 水になってしまった・この子たちのお姉さん

夜さり 月のきれいな嵐の夜に・水になってしまった二人のお姉さん

十五夜 汐・泡沫

アカツキ お姉ちゃんは水に溶けて

夜さり 海にうつる映しの満月になったんだ

十五夜 それでも嵐がやってきて……

汐 泡沫。こんなことになるなんて、おれは思ってもみなかった。

泡沫

……

汐 姉が生まれていれば、おれたちのどちらかがこの世に居なかったろう。おれは、

おれが、

十五夜 やめて。

生まれてこなければよかった。

泡沫 (笑う)

火影 泡沫。

汐 泡沫。

ナギ 泡沫。

十五夜 泡沫。

アカツキ 泡沫。

夜さり 泡沫。

全員 苦しいよ。

ナギ 水の底はこんなに苦しい。見えるか？泡沫・どうして？おれはきみを守ろうと

決めたんだ。

ナギ お前の影が、

全員 お前の毒が苦しいんだよ。

泡沫と汐以外、のたうちまわる。二人はそれをみている。

汐は水槽の水を捨てる。やがてナギだけが息絶える。

それは単なる魚の死、しかし泡沫は二度恋人を失う。

恋人を失った泡沫の助けを求める声から地続きに場転
母親が生きていた時の物語

泡沫 ……助けて。ねえ、だれかきて、お母さん、

夜さり 泡沫、どうしたの？泣いているの？

泡沫 昨日の夜ね、お父さんが、ここを…

夜さり お父さんが？

泡沫 昨日だけじゃないの、分かんないんだ、父さんがぜんぜん違う人。分かんない、

夜さり 兄さんに見つかったらどうしよう、ねえ、あたし汚いよ、夜さり ぜんぜん、

泡沫 ちがうひとなの？

夜さり そうなんだ、ちがうひとみたいなんだ、汚いでしょ、いま・いま・どんなにお

泡沫 いすんの？お母さんにしか聞けないよ、あたしの腕はどこにあんの？

夜さり うん、分かったわ、

泡沫 たすけてよ。

夜さり (行こうとする)

泡沫 お母さん！！！！

夜さり うん？

泡沫 どこにいくの？

夜さり お父さんのところよ。

泡沫 行かないで？ねえ行かないで？

夜さり だって、そうでしょう？

泡沫 ねえここにいて、なにしにいくの？

夜さり なにとって…、お父さんにもお話を聞きに行くのよ？

泡沫 どうして？

夜さり (笑う) だって分からないじゃない。

夜さり ……

泡沫 お父さんにも聞かなきゃ、分からないじゃない？

夜さり どうして？どうしてなの母さん、

夜さり (出て行く)

泡沫 行かないで、その部屋に入らないで！

夜さり (自分の首を絞める)

泡沫 母さん、

母親としての夜さり、首を吊る

そして、最後の記憶。

汐が父親を殺してしまったほんとうのものがたり

アカツキが少年のころの汐、火影が父親である

泡・アカ

もうやめてよ！！！

アカツキ

(泣く) くらいよ・こわいよ・なんにも見えない

夜さり

夜が来て、そっからは、

全員

落ちて・落ちて・落ちて・落ちて・

汐・泡

痛みで体がばらばらになりそうでもまだ落ちて、

アカツキ

もういいや、もうつかれてしまったよ。

全員

お父さんがお母さんを殴ったこと、お母さんが首をつって死んで、お母さん

アカツキ

が死んだらお父さんが娘を犯したこと……

火影

ぼくは家族じゃなかったのか！！

アカツキ

(遠吠え)

アカツキ

(振り返る)

火影

まだだ。

アカツキ

父さん、

火影

汐、泡沫、まだうしなっちはいけないよ。

全員

うるさい！

アカツキ

(掴みかかる) お前のせいで母さんは首を吊ったんだ！

火影

汐、

アカツキ

腕が腐るまで殴ったくせに、

火影

母さんから聞いてないのか？

アカツキ

まだ手に血がついてるじゃないか、母さんの・母さんの血だ！

火影

おれが憎いか？

アカツキ

(殴る) ふざけんな！！

火影

じゃあやってみな。

アカツキ

(絶叫／殴る)

火影

(殴り返す／蹴り飛ばす／ナイフを渡す) なあ、こいよ汐。このナイフでおれ

アカツキ

を殺しにおいで。

アカツキ

殺してやる、

火影

泡沫を連れて来い。

汐・アカ

殺してやる！

夜さり

あのうつくしいうみたち。家族で行った最期の山登り、竜胆の花が咲いていた。

汐

母さんの顔が、………おもいだせないんだ。

覚えてのは波音と竜胆の花だけ・おれはずっと下を向いて、泡沫の手を握りしめ、少し前を歩く父親の影を逃すまいと、ひたりひたり踏み続けていた。まるで縫い付けるように・憎むように。そしてのぼってのぼって、登り切ると、よ

うやく街に帰り着き、そこにおれたちの・おれたち家族の

そして少年の汐と青年の汐の記憶

アカツキ 父さん、

汐・アカ 何してんだよ。

泡沫 兄さん、(苦しむ)

汐 泡沫に、なにしてんだよっつってんだ！！

火影 (笑う) 汐、

泡沫 兄さん、(お腹をおさえて) こわいよ、怖いよ、怖いよ、怖いよ！！

汐 ずっとなのか。

火影 (笑う) なあ、汐、

汐 (ナイフを取り出す) 離れろよ！離れろよ！いいから！

火影 やってみな。

汐 おまえ・なんか

火影 簡単だよ。お前なら出来るからさ、：あっという間だ。

汐 おまえなんか父親じゃない！

火影 こいよ。

汐 (絶叫/ナイフで火影を刺す)

火影 (汐を抱き寄せて) お前なに言っただ。見ろよ汐、父さんは・家族を・ちゃ

んと愛しているじゃないか：：。(倒れる)

夜さり 愛してる

汐 ぼっり

アカツキ 愛してる

汐 ぼっり

火影 おれは・おまえを、

汐 ……ぼっり・ぼっり・これは誰だ？おれは誰だ？(右手を見る) 誰の手だ？

ナギ 水の音がするの

十五夜 溶けないの

全員 居なくならないの。

泡沫 (お腹を抱え・呻く)

アカツキ いやだ・いやだ・いやだ！

ナギ、泡沫の体に陰を作る。

ナギきみの子供、この世の影だ……！

泡沫の体から水がこぼれる。沼からポチャンという音。

泡沫だ、れ。

沼から魚の群が押し寄せ。たくさんの足音がする。

泡沫・アカ　くるな。

十五夜　おいで。

泡沫・十　くるな（おいで）！

泡沫は魚から逃げる。十五夜が魚を呼ぶ音をたてる。

十五夜の体を這い上り、泡沫の元へ魚の群がくる。

泡沫　……いいよ・きて。

泡沫から魚が生まれる。泡沫は魚を産む。

それはナギとおなじ姿をしている。

十五夜　音がそのときにしたんなら、そう・それ・それが合い言葉に。なって、

泡沫　（呻く）

アカツキ　ねえ・なんでなんでなんであたしじゃだめなの？あたし・あたし・

十五夜　雷魚！待っていたよ・全部おなじように巡って滴って返して。雷魚なら、沼から這い上がって川を下り海へ放たれる。がらがら、びしゃんびしゃん、雷が呼ばれてる（泡沫の足を聞いて）蛇の頭が見える！

アカツキ　あたしはちゃんと産まれたかった！

夜さり　こっちだよ（手を叩く）こっちにおいで！

泡・アカ　（嗚咽）

十五夜　おはよう。（ナギを取り出して）よくきたね。

ナギ　ここ、

十五夜　……

ナギ　おれ、ずっと、暗くて、見えなくて、でも

十五夜　（泡沫に）このこ、あんたのものよ。

泡・夜　おかえりなさい。

泡・十　この魚に、ナギという名前を付けましょう。

泡沫・ナギ　ずっと私のそばにあるように、

十・ナギ つかすべて食べられるその夢をみるように。

泡沫 ねえナギ。心臓の音がしない。

十五夜 (胸に耳を当てる)

泡・十 この子は心臓をどこかに置いてきてしまった。

十五夜 孤独を抱えた蛇の心臓、

泡沫 南の空に鈍く光る・六等星アルファルド。

泡・十 孤独・孤独・孤独をどこに置いてきたの。

ナギ、泡沫のおなかに手を当てる。

泡沫 ありがとう…。

十五夜 ずっと一緒に、

泡・十 いてね。

ナギ (笑う、牙を研ぐ)

夜が来て、そして暁。

アカツキ なにかほしいものがあるんじゃない？

泡沫 もうないわ。

夜さり 返さなきゃいけないものがあるんじゃない？

泡沫 それもない。

十五夜 そんなら私に代わってよ。

泡沫 だめよこのこは渡せない。

全員 どうしてそんなことをいうの。

泡沫 そんなこと。

全員 ねえ・どうして・うごかないの？

泡沫に、夜さり・アカツキ・十五夜が陰を作る。

泡沫 わたし？

十五夜 そう。

夜さり 全部そうよ。

アカツキ じゃあ、

夜さり そうだね。

泡沫 わたし？

全員 わたし。

手で影絵をして、泡沫に陰を作る。

泡沫

ここにいてはいけませんか。

その声を聴いて、影は去っていく

火影

泡沫。

泡沫

∴∴

火影

暴走する猫空想する畝、本当のことは誰にも分からない、酩酊する空培養する膿。なにを行っても甲斐がない。燃える湖桜色の波、灰色の獣に丁寧な嘘を。

この牙は何人も咎めない、医者薬は毒にもならない

泡沫

∴∴

火影

でもねわたしなら・これらは全部とってあげられる。こーやって（泡沫の首を噛む）痛ああ、そんな顔しないよお、いらぬもの分かってる、これを全部とってあげられる∴。でもね、それはなんだと思うだろ。泡沫。だめなの∴、どうしてだめ？じゃあきみは、わたしを捨てなさいよ。

泡沫

（首を振る）

火影

バカかね、でもだからきつとね、そんならひとり死ぬさ∴。なれてんだ、こいういうなんもないの、ずっとひとりずつとやって。ねーえ人間って嬉しいのどうやんの（笑う）悲しいってこーすんの？（泣く叫ぶ殴る噛み付く）

泡沫

（振り払う）

火影

うたかたのことがわかんないよ！！！！

泡沫

∴∴

火影

泣くの？ねー笑いなよ。泡沫は笑うのよ、わたしのためにさ、やって・真似するから！

泡沫

（笑おうとする）

火影

へたくそ！

泡沫

∴∴

火影

でもなんでだれが笑えんの、なぜ指差すの、なんでバカだって言って、

泡沫

∴∴

火影

なんでひろったりをしたの、どうせ捨てるとしたらあんときわたしを捨てたのこそ間違いだっただんじやないのわたしもきみも。誰の手も、あんとき、要んなかったんです、∴でしょう、あんときわたしは、全員の手は温度・等しくの同じ、誰も彼も顔の区別付かなかったしなかった、あたたかさ・つめたさ・すべてただ論理的に∴∴言葉だった。死んだひとはあつたかいです、同情は冷たいな。

泡沫

ほかけ、

火影

知らないのよかった分かんないならよかった。あつた手が・こういう風に及ぼされること、きみの手が、ああやって優しく伸ばられること。むかしからこれからも知らないでよかったの。あのまま影のさすところ、じっと湿った夢を食べるなら、そんできみを、一番大切にしていられたんでしょう。きみを踏みにじったじゃないか！

泡沫

…

火影

でもわらってほしいんだよ。だめ、こうして、そんで、

泡沫

(呻く)

引きちぎったらどうすんの。来いよ、踊れよ！踊れ！嵐だ雲だ波だ影だ影だ闇だ！

泡沫

(払いのけない)

火影

…

泡沫

…

火影

くらやみざか。

泡沫

…

火影

おれと一緒に、もういちど暗闇坂に落ちませんか。

泡沫

ほかけ…

火影

おれはちゃんと幸せでした。ありがとう。今までありがとう。世界で一番幸せ

火影

なんだって・思わせてくれて・心からありがとう。

泡沫

…

火影

でも願うなら、おれはきみのために不幸になりたかった。

泡沫

…

火影

なあ泡沫、あの子の桜色の貝殻は、まだポケットに入っているだろうか？

泡沫

……！

火影

待っているよ (駆けて行く)

電話が鳴る / ナギ、泡沫の足を噛む

汐

はい。

ドアが四回叩かれる。 / 窓から包帯が放り込まれる。

汐

…

ドアが四回叩かれる。 窓から包帯が放り込まれる。

汐 …誰だ。誰の…（扉を開けるがだれも居ない）

自分の産んだナギに食われて、片足のない泡沫が現れる

泡沫 それ、ちょうだい。兄さん。

汐 ……

泡沫 きみのじゃないんだ。

汐 ……おまえ、

泡沫 （足に包帯を巻く。夜さりに金を渡す）あたしのものだ、これは。

汐 ……

泡沫 わたしは魚になる。腕をなくして、足をなくして…。

汐 ……

二・十 そうしてかえる。

泡沫 水に：ナギに…。

汐 （殴る）どこにもいないって言ったろう、

泡沫 ……

あの雷魚は紅茶を飲んで死んだ。お前の毒で苦しんで白目剥いて泡吐いて死んだ。

泡沫 ……

汐 死体はおれが処分した。庭の沼に、沈めた！

泡沫 （笑う）

汐 ……この右手さ、

泡沫 ……

魚の腐った嫌な匂いが剥がれないんだよ、…なあそうだろう？

泡沫 ……

頼むからそうだと言ってくれよ…、

汐 ……

魚だったじゃないか。最初から最後までお前の恋人なんかじゃなかった！

泡沫 （笑う）

汐 ……どうして。

泡沫 あれ、（水槽を指さす）

自分が殺したはずの雷魚が、また水槽の中にいる

汐 なぜ…。

泡沫 （微笑む）

汐 どうしてまた、雷魚が……。

泡沫 わたし子供がいたの。

十五夜 知ってたでしょう。

二・十 だからそれがそう。

汐 父親は？

泡沫 父親？……父親ってだれのことだろう？

汐 ……

泡沫 そのこはきのうの夜に産まれたの。

二・十 ナギという名前にしたよ。

泡沫 これからも私たちは、ずうっと一緒。

汐、水槽に手を突っ込もうとする。十五夜が汐を止める。

十・二 体を失うぞ。

汐 ……

夜・アカ その魚は人を食う。

十五夜 どうしてだと思う？

夜・アカ 復讐さ！！

ナギ うしお、

汐 ……

ナギ うしお！

汐 (耳を塞ぐ)

ナギ (塞ぐ手を引き剥がす) おまえ、おれを、ころして、安心していない？

汐 ……

ナギ *It is not enough that Your overkilling was!*

汐 ……

ナギ 汐。おれを殺せると思うなよ。汐、おれもお前の父親も、お前が何度殺したって、

全員 おれたちは必ず

ナギ おまえに許してもらいにくるの。

汐 おまえは嘘つきだ。やっぱり死人は嘘ばかりだ。

ナギ ……

汐 許してほしいなんて……

ナギ ……

汐 お前がおれをゆるさないんだ。

ナギ おまえを？

汐 お前がおれを許さないんだ！

ナギ (笑う) 聞こえ・ねえ・なあ！

汐 ……！

ナギ 水槽の中ならお前の声は散らばって霞になるし、お前の表情はガラスの曇りで霧になる。だからお前がなにをしても・なにもしなくても？ここで波紋は広がり波は打ち寄せる。

汐 じゃあどうすればいいんだ、

ナギ 波紋に揺れな、

汐 教えてよ、

ナギ 波に飲まれな、

汐 ああ、

ナギ ……やがて波紋は消え白波は失せ、それでもお前はここにいればいいの。そこには必ず・おれが居るから。

汐 (泣く)

ナギ ずっと一緒だよ・汐、

汐 (泣く)

ナギ ……泣くなよ。おれも泣いてしまいそうだ…。

夜さり (シチリアーノ)

アカツキ あれは、

泡沫 水の音色。

ナギ 嵐が来たね。

十五夜 きみが産まれたときにもこんな嵐の夜だった。汐。

全員 見えるか。

アカツキ 嵐の中を漕ぐ、あのか弱い船が見えるか。

夜さり あの船は星を目指している。さまよう迷子の海のサーチライト、アルファルドの孤独に背を預け…。

泡沫 いつか、

全員 いつか、

汐 たどり着くだろうか (眠る)

ト書き まっくらやみの夜の中、太陽が照り陰を作る。

泡沫がナギに手を引かれバージンロードを歩く。泡沫を食べる

ト書き

手と足を失った泡沫の歩みは、魚が遠い上がり泳ぎ始めるように見える。汐は眠っている。眠りながら・最後のページを書きながら・それでもその光景が忘れられなくなりますように。島の周りにたくさんの足音、魚、いいえ神様の足

音、

汐 (本を開く) 雷魚、青街灯、暗闇坂、あるいはうしなわれたものたち。

泡沫 ナギ。

ト書き 電話を掛ける。配達人がドアを叩く。彼は彼女はドアに鍵をかけた。

泡沫 (食べられながら) かみさまかみさまかみさま聞こえますか。ここにいます。その入江の先に星が光るのが見えますか。この中に神様がいる。この心臓に神様が住んでいる。これを全部あげるから。許してくれますか

ナギ ……

泡沫 ここにいる。それを信じている。これからとても辛いことがあるだろう。それでいい。どうすればいい。なにかを思った。でももう忘れてしまった。会いたかったよ。みんな好きだった。みんなのことが好きだった。嫌いな人なんてひとりも居なかった。みんなが納得すればいいと思ってた。でも自分は全然すっきりしなかった。世界で自分が自分だけを拒んで。そしていっぱいになって。嵐になった。雲が渦巻いて雨が降り。海が返せと泣いている。あなたは海。これを全部あげるから。許してくれますか。許して欲しいんです。ねえあたしは死ぬんだろう。でもね。心臓がなくなっても生きていける。だってあなたはそうだもの。一緒にいよう。一緒に生きてくれませんか。兄さんと話したい。ナギと話がしたい。夜さりと話したい。アカツキと話したい。火影と話したい。父さんと母さんと。もう一度話したい。自分と話がしたい。色んな人と。色んな時間。色んな風景に行きたい。連れて行ってくれますか。連れてくよ。ねえ待ってたんだよ。見えますか。入江の向こうに星に向かって漕ぐ船が見えますか。きつとこの目でみる最後の船。さようなら。さようなら。さようなら！わたしが居なくなっても。きつとあの船は必ず沖へ。帰り着くでしょう。

(吠える)

火影 ねえ、父さん、これ、わたしがずっともっていた。怖かったものの正体は、あのとき血まみれの右手から受け取ってからずっと、これはわたしのものだった (腕を差し出す)

火影 (腕を噛み切る、ナギが食べようとするのを争って) 暗闇坂で待つ。この真っ黒な体なら、きつと誰もわたしを見つけないから。ねえ待つ。坂の麓で、きみのこの右手を、この骨を啜えて、きみにたまにちょっと会いたくて。それでもずっと闇の中にいるよ。

泡沫、ナギに食べられてゆく

泡沫 うしお、

全員 さようなら。

汐 泡沫？ 泡沫…？

夜さり さようなら、

アカツキ さようなら。

十五夜 泡沫と先に行くね。

汐 ……

十五夜 汐…。

汐 ……

十五夜 そうね、すこし…。

汐 どうして？

十・夜 波の音、

アカツキ ねえ聞かせてよピアノ。エリーゼのために、月光、アイネクライネナハトムジ

ーク。だめなの？

十五夜 じゃあシチリアーノ。

アカツキ (シチリアーノをうたう)

夜さり この街にはじめてやってきたとき夜だった、一番初めに潮のにおい、それから波の音、青い街灯が濡れ染めて、この街はすっかり海に沈んでいた。あれからずっと、

全員 波の音が、

夜さり どこか責めているようにも聞こえました、

全員 どうして、どうして、どうしてと…。

夜さり でもね、この街から・あの人から家族から、逃げずにそれを負うことで、自分のこころの決定的な足りなさが、許されているような気がしたの。

汐 ねえ、

夜さり 憎まれるのが怖かった、陰ふみの鬼になれなくて、

全員 でもね、

夜さり 今ならちゃんといえるから、

アカツキ さみしくなんかない、

夜さり そしてずっと許さないでいて、

十五夜 やっぱ嬉しいの！だって！

全員 ようやく、

十五夜 お別れが言えるから。

汐 ……

全員 ほんとうに、さようなら。

汐 ……待ってくれ！

ナギが泡沫を喰い切る。

全員 (本を読む) 雷魚、青街灯、暗闇坂、あるいはうしなわれたものたち。最終ページ。気が付けば水槽の中には、ただただ水だけがあった。そして、汐が後ろを振り返ると、

汐 振り返ると、(振り返る)

ナギが立っている。

ナギ。

全員 ナギは牙を研ぎ、床を這い回る。

ナギ？

ナギ (うなる／牙を研いだり、床を這い回る)

全員 ナギは自分の体を喰い始める。

なにを……

ナギ (唸る)

嘘だろう……やめてくれ。

全員 電話をかけるが繋がらない。叩き切る。ナギは自分の体を食べ続けている。友人の体は・

ト書き いや・魚・の・体・はみるみる減っていく。

やめてくれ、もう、たくさんだ……、ナギ、もう

ナギ (息が荒くなる、自分の体を喰う)

おれは、おれ……、おまえを・ゆるすから……

ナギ (唸る)

汐 だから、ナギ、お前に、本当の最期の言葉を言うよ。親愛なる友よ、妹を、泡沫を幸せにしてくれてありがとう。父さんを守ってくれてありがとう。母さんを守ってくれてありがとう。火影を守ってくれてありがとう。産まれてくるはずだった、泡沫の子供を守ってくれて、おれを守ってくれてありがとう。本当におれたち・家族は・みんな・みんな幸せでした。

ナギ ……

ナギ、聞こえているね。

ナギ (水槽の水を飲む)

汐 ……おれを、恨むだろう。愛していると・すべて守るといつてくれたおまえを、家族にしてあげられなかった、だから、

ナギ (動きを止める)

全員 汐は手を差しだし、徐々に魚に近づく。魚は汐を警戒して威嚇し、間合いをつめると汐に噛みつく

汐 おかしいな・ビロードの隙間から、いま月が見えたような気がしたんです、ね

え！つきが！きれいですね！！（抱き寄せる）おれは、おまえを、

全員 雨がどしんと落ちてきて・雷鳴が聞こえたよ・汐の家の赤い屋根は闇と街灯ですっかり真っ青に濡れて・雷が鳴るたびにだけ赤くじわりと点滅しているように見えた・最初から最後までなにもかもが終わっていることが分かったんだ・かれは、

ト書き （ドアノブを捻る）

全員 かれは扉をあけた。

ト書き がしゅん・がしゅん

全員 ここにある・本はね・海の深くふかく沈んでいたのを・おじさんが・全部すくい・あげたの・ここから・すぐく・遠いところに・島がある・その島の沖に・ずうっ・と・沈んで・いたんだよ

ト書き 雷魚

アカツキ 雷魚

論理 青街灯

本 暗闇坂

明かり あるいはうしなわれたものたち

扉がひらく。

扉を開けたのは、海辺の図書館の物語をはなした、若いころの酩酊である

汐 駐在さん・今までどこ行ってたんですか、あんたがおれを裁かないから、なにもかもおわりにしてしまいました。でも足りないです・やってもやっても足りないんです。だって・まだ・ここに生きているじゃないか！！ねえ・おれを許してくれませんか、許してよ・許して・許して・そうして暗いくらいところへ、落として・落として落として落として、影も踏めないくらい・憎めないくらい・もう二度と帰れないくらい！！

ト書き （指を立てて息を吐く）

ナギ （なにかを言ったようにみえる）

全員 （ページを探すが、彼の言葉は見つからない）

汐 ありがとう。

ナギ ……

汐 ありがとう。

ナギ ……

汐 おまえに、そういってほしかった。

波の音

ト書き

雷鳴……（床を鳴らす）雷鳴……（床を鳴らす）雷鳴

全員

（床を鳴らす）雷鳴……（床を鳴らす）雷鳴……（床を鳴らす）雷鳴……

雷鳴

幕